飯田市

発行所 飯田市公民館
編集人 飯田市新聞委員会
印刷所 龍共印刷株式会社 飯田市伝馬町1 電961

災害復旧特集号

復旧進度は5割強

道路農地を重点に施行

▼農業関係

あれから一年目然の猛威の前になす術もなくまたたく間に先祖伝来の田畑を流され未曽有の被害が出てしまった。その後の復旧の現状はどうか。見通しについてはどうなっているのか。市の農林課に出向いて、その実状を聞いてみたまず耕地関係の被害総額は概算二〇億円。内訳は農地が七億円施設が十三億円となっている。施設とは農道、水路、頭首口等である現在までの復興の状態は三十六年度には四億六千二百万円、この内農地に一億九千六百万円で三十七カ所、施設に二億二千百万円で九十六カ所が復旧されるのであるが、なお今に致るも田植どころか何時復旧されるのか解らない個所もある。

水田の被害面積は公共災害百四十五町五反六畝、市単小災害五町八反八畝であり、内復旧され田植の出来たのか公共災害が七十四町一反で約五十一%、市単小災害が四町六反で七十八%、となっている。残りは河川復旧の出来ない個所を除いて三十七年度中に全部完成の予定である。復旧田は三反歩とか五反歩の区画になっているがこれが台帳面積と合わない人については地元の話し合いで区画の中を細分する場合もあるが、近代化農業を良く研究して共同化とか、大農具の利用などを考えて決めてほしいと係ではいっている。尚、田を復旧されても田植の時期を失してしまった田は何を作付したらよいかは振興課で考えて地元と話し合ってきめるそうである。それでは三十七年度はどの位の予算がつくのだろうか。約九億円で内訳は直営と県営が半々ずつの四億五千万円ずつである。三十七年中に復旧されない個所は三十八年度と九年度に行なわれるのであるが、これは災害復旧は四年で行なう規則があるので早く復旧したくてもどうしようもないが、三十七年度中に大きい個所及び緊急を要する個所は完成させ、三十八、九年度には直接関係のない個所を廻す事になっている。

来年度に完成を期待

▼土木関係

土木課で担当している全市の災害復旧工事は六億円の予算ではじめられた。王竜寺川、米川など昨年度中にこの三割（一億八千万円）がかたづいた。今年になっては三億五千万円分が県の担当工事になったため、市で行なう今年度分の工事はわずかに五千万円程度。このため市で担当している工事は今年度中に八十五%が完成する予定。

市で担当している工事の重要河川は、王竜寺川、源長川、米川、南沢川、土曽川など。残っている災害箇所が県の担当になって仕事の量は減ったものの、何にしても災害のツメ跡がひどいだけにその工事もなかなか大変。だが、三十八年度末までには九十五%完工の予定だと課ではいっている。

近代化の線にそって 五反歩の区画復旧

地方事務所耕地課で松尾地区の災害復旧について聞いたものをまとめてみた。

明河原地籍

復旧の対象となった面積は水田四十五町歩、畑十八町歩となっている。

このうち、今年度は水田の六割（二十八町歩）の植付けを日標に工事を進めた六月に入って例年より雨が多かったことと特に労力不足が痛手だったが、大体予定通り進んでいる。七月十五日現在で四十五区画（二十二町五反）の地ならしが完了し植付け可能となっている。六月二十八日に試験田の田植えを行なった。七月七日より本格的に田植えを行ない。七月二十日頃までには日標の約二十八町歩の田植えを完了する予定。

畑については、十八町歩のうち現在七割程度へ耕土の搬入をおわっている。

下島地籍

一方下島地籍は、復旧面積十四町のうち七月十五日現在約七割を完成した。七月二十日頃までには約一町歩を残して田植えを完了する予定でいる。

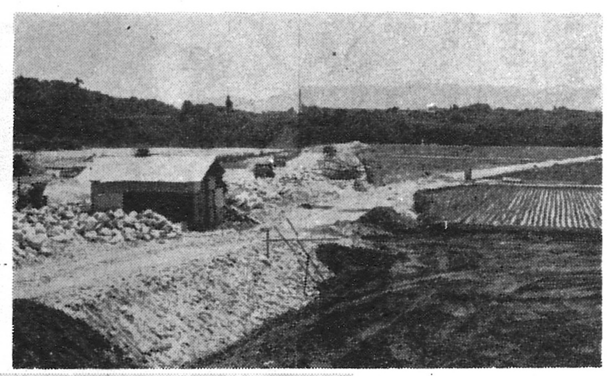
明河原、下島ともに本年十二月いっぱいには全部の工事を完了することになっている。

工事は、県が市から委託を受けて行なった施工は、農地開発機械公団によった。

工事の概要は、スクレーパーとブルトーザーで流入堆積した土砂を平らにし、この上に芯土を二〇センチ、耕土を二十センチ入れた道路は明河原、下島で総延長七五三七メートルで、そのうち幹線道路は五本、幅員は五～六メートル支線道路は九本で幅員は二～四メートルとなっている。水路は、総延長八八三三メートル幹線用水路（上巾一・一五メートル、下巾六〇センチ、高さ六〇センチ）が二本で六八二メートル。支線用水路（上巾四十八センチ、下巾四十五センチ、高さ三〇センチ）が七本で三八四一メートルと排水路（上巾二・七メートル、下巾一・八メートル）六本で四三一〇メートルからなっている。幹線用水路と排水路はコンクリートブロック工法で、支線用水路は鉄筋コンクリートU字溝工法によって出来た。

芯土としての赤土は、明河原と下島の一部へは代田山から運んだ明河原へ二十万五千リューベ、下島へは旭松工場の敷地と合せて、五万六千リューベを運んだ。

総工事費は約三億円となっている。



（上）五反歩の区画に復旧されて青田と化した松尾下島
（下）下島の被害直後

川路地区の復旧について

復旧対象の面積は六〇町三反、復旧計画については、田は三七年度に全部植付け可能に、畑については、桑園として三七年秋に全部を移植することを予定した。

畑は、堤防や河床等からみて、冠水は免がれないから、麦や大豆より桑園がよいと想われる。今秋植える桑は昨秋仮植して二年生のものを植えるように計画してある。

六月三十日現在の復旧状況は水田九〇%、畑二〇%となっている。

各工区別にみるとつぎの通り。

第一工区（学校の東側）九〇%
第二工区（駅の東側）一〇%
第三工区（久米川の南、鉄道の西側）一〇〇%
第四工区（久米川の北、鉄道の西側）八〇%
第五工区（久米川の北、鉄道の東側）未着工

ここには、桑が残っているので地元の要望等を考慮して工事を進める。

以上が復旧状況であるが、全体の工事の完成は十二月までを予定している。

工事は災害によって流入した土砂（約百八十万リューベ）をならして、その上に上平から一四〇万リューベの赤土を搬入した

上 被害当時の川路駅附近
下 一年後の川路駅附近

論説

復旧の後に来るもの

昨年の豪雨以来一年を経過し、国、県、市等あらゆる面からの協力を得て、河川、耕地の復旧をみた。だが水田のできない所や、河川の危険か所があり、あと二か年で治山から一切の復旧工事が改良を加えて終ることになっている。

この中で耕地、特に水田の復旧が遅くれ各地で問題化しているが田植も次第に行なわれている。復旧はあと二年でおわることになっているが、その後に来る問題を考える時期になった。

復旧の後に来る問題として①工事に出労することによる、労賃収入の停止②復旧耕地に伴なう共同化③農家自身の考え方の革新等上げることができる。

①は農外収入が工事がおわると共に止まることになる。農家の経営、家計面に大きなプラスをしたこれが高い水準の消費生活え追いやったことになり、この面で農家経済に赤信号がつく。農外収入の多い内に農業基盤をしっかりと作って置くことが必要ではなかろうか。

②は大型機械を入れて、どこの耕作組合でも、耕作しているがこれからの農業のあり方を示めしているものとして各方面から注目されている。今度の災害を契機として共同化を進めることが望まれるのだが、ある地区では協業で行なうのは今年のみで、個々分にけたいといっている。共同化の難しさもこの辺にある。

③は農家自身の考え方を変えないかぎり、以上あげた幾つかの問題は解決がつかない。「隣りの不幸はカモの味」的な考え方から抜けださない限りむずかしい。とすれば解決の道は、見本を示すこと大型耕作機械を使用するための共同化、等あげることができる。

一方、指導面に於いても稲作は稲作、果樹は果樹、養蚕は養蚕とか。個々別々に別々な考え方によって指導がまちまちのため「何をやったらよいか」と迷っているのが、農家の実態なのではないか。

市自体に於いてもほとんど政策がなく上からの政策をやっと行なっているというのが現状ではなかろうか。振興室と立派な行政所を各農協に置きながら仕事は容易に進んでいない。今年から農業構造改善事業の指定を受けたが、一億一千万円の助成金内ではどの程度の構造改善ができるというのだろうか。農家がこれを十分活用することは困難である。新農村で出来た施設は活用されているのだろうか。

だが現在の営農方式では他産業との経済的格差が大きくなるばかりである。これを変えて行かないかぎり農家経済は停滞、または後退を余儀なくさせられる。

災害復旧を契機に耕地の団地化作物の集団化をはかり、共同化、協業化を進め、余った労力で他の部門を取り入れて行くべきだろう以上の問題を進めるために、農外収入を農業資本に繰り入れ再生産のために生かしたい。（T）

被災者の声

検査は厳しく

災害をふりかえって、ここ一年になり主な河川は、三十六年度工事が完成したものと見受けられますが、設計の手違いで水路の取入口が落ちていたりして、水稲の植付に支障をきたしたものである。

また、工事検査数日後、水をつけないのに、工事した所が崩れる所も多々ある。

堰堤工事の折、堰堤の内（大石等投げこみ工事を仕上げる。設計の内に入っているならば？？

こんなやり方で、検査が通るならば、業者の笑いが止まらないことであろう。

市財政困難といわれている折、監督機関は、ムダな金を浪費しないように検査監督されたいものである。

よろこびを被災者全部に

復旧した水田もほぼ植付けがおわった。あの災害から一年、泥の海へほうりだされたあの時の気持今考えても頭の中がおかしくなる石砂原と化して草一本とれない田畑となってしまってどうしたらいいかと思った時、あれから一年疲れた体をただ無我夢中で復旧に、復旧にと体を引きずってきた。まだ復旧は約半分にもみたないが復旧した水田に植付けされた青田を見た時、われわれ災害者でなければわからない喜び、これがどの位の収穫になるかは問題としても心の中にちらっと何か光りがさしたような気がする。だが、まだ復旧してない災害地を一日も早く復旧してもらい又、手落ち、手抜かりがないように最後の最後までやってもらい遅速の差をちぢめてもらいたい。各河川の安全と農地を完全に活用出来るよう完全復旧を早急に早急にと行なってもらいたいものである。

共同を望む

（座光寺 災害者）

あの忘れもしない災害から早くも一年以上がたって私達の松尾地区には大型機械によっての復旧工事のお陰で〇〇〇ヘクタールの田植えが出来た（七月二十日現在）田植えをしながら考えたが、今度ほど実際に「政治の有難さ」偉大さに感服するばかりだ。

昭和二十年の災害当時にくらべれば復興の早さ、規模、整備された土地をみてその感が特に強い。

それと、今後当然問題になることではあるが、復興地の個人分配か共同耕作、あるいは共同化かという経営方式のことであるが、ぜひさけなければならないと思うことは、せっかく出来た一枚五反歩の耕地を、各自が仕切って使うようなことのないようにしなければならないと思っているのである。

血税の浪費にならぬ様に

本年度から県担となった大きな河川の復旧が遅れた。降雨のために心配がたえない。重要河川にすれば県がやるからと、市で着工をひかえた感がありはしないか、着工順位もあることだろうが、もう少し公平をのぞむ次第だ。被災者として思うことは、市にばかりたよっていないで、自分達でもう少し、協力すべきである。例えば五十円や百円の日給の差で地元の工事を見ながら他え行ってしまうというのも一考を要す話だ。以前の工事だと、セメント幾袋を売りとばしたとか、とにかく、インチキな工事が行なわれ、少し降ればすぐ流れてしまった。これでは血税の浪費だ。今度こそはそういう点は完ペキを期すべきである関係当局はご苦労であるがよろしくおねがいします。

地元もなっとくの行く線で

伊賀良 二五才 男

市担当の小さい工事も市当局の努力でよく拾ってくれ感謝しています。

道路や水路の工事も十万以下で市が起債して行なってくれるので地元負担金もいらずに有難いわけですが、担当技術者の設計に勿論異議を申すわけではありませんが、一寸と見た目で納得が行かずに不案をいだいている面もあるので、もう少し地元と話し合いをして頂きたいものです。

風車

▼集中豪雨災害以来既に一年、復旧工事は、時代の波にのった動きと共に、農村に数多くの問題を投げかけている。工事人夫の仕事によって差はあるが、六百円から二千円程度までだという。▼「一日土方に行って来れば米が一斗も買える。これじゃ田や畑に草を繁らせたって損もなけりゃ、無理もない。」と一老人が嘆いていた。けだしもっともな話である。それでもお田植のしてない田はない。農業がいろんな面で改善されて来ているとは云え余剰人口、特に若い人のそれが殆んどない現状には考えさせられてしまう。▼今年は心配されながらも、災害に逢うことなしに過ぎて来た。幸運であったと云う外ではない。だが決して安心する事は許されない川路地区を始め多くの場所が危険にさらされている。用地問題等に手こずって百年の大計をあやまることのない対策が講ぜられるよう住民と為政者の努力を願ってやまない。

告知板

▽十月一日 第一回竜丘一斉農休日
▽十一月三日 市民運動会、第二回竜丘一斉農休日
▽十一月二十三、二十四、二十五 竜丘文化祭
▽十二月一日 第三回竜丘一斉農休日

農休日が具体化する

生活に計画性と楽しみを

地区内一斉にまず十月一日に実施

▽…公民館で農休日の問題が、いよ〳〵具体化し、十月一日地区内一せいに実施…△
▽…することになった。これから毎月一回ずつ行なうことに計画されている。こ…△
▽…の問題は、すでに一昨年から取り上げられ、話し合れて来たが、特に婦人の…△
▽…人達からは強く要望されていたもの。農休日が実施されている所は他地区に…△
▽…於ても例が少く、各方面からも注目されている。あくまでもこの農休日は自…△
▽…分達のものです。いまから話し合ってしっかり計画をたてておきたい。…△

公民館が一昨年農休日の問題をとりあげ話し合ってきましたが、主人公たる農民の多くが〃経営が多角化されて暇が見出せないところへ、最近の傾向として兼業農家が多くなり手間がへってしまって雨でも降ればよいが天気のよい日には休んでおれない〃とか〃百姓はお天気仕事だから雨降りが休日だ。又冬は休んでいるんだしそうでなくても ひまざえ が多くなって〃とか、いろ〳〵な理由で農民にはきまった休日などというものは昔からもてないものとしてきました。

それから約二カ年余が経過し、最近になって百姓だけに定休日がないのは残念だ、何とか地区内一斉に行う農休日の問題を考えようという切実な願いがはっきりとあらわれてきた。

経営を合理化し休める体制にしよう

農休日は単なる流行では決してなく、農業に従事する青年が著しく減少し、どんどん離農していく現実の中で、そのしわよせは当然家にいる者たちへ及ぼし、過重労働が止むなく要求され、その中でも特に、食事の事、育児の事、家族のめんどうなどみながら農業に従事するという主婦に及ぼす影響は、非常に大きく自分では承知しながらも、その域を脱しえない状態といえる。一方、こうした生活を見つめる若い娘さん達は、今のようではとても農家へお嫁に行きたくないが、農業労働を決して嫌っているのではなく、農家でも〃気がね〃のない自由な時間を毎月もてることを望んでいるという。

百姓が休むということは楽なようで実は働くよりえらいことだと考えられるが、何より大切なことは毎日の生活を合理化し余暇を生み出せるように経営を考え、みんなが休める体制になるように努力しなければならない。

みんなが賛成した分館ごとの話合い

こうした農休日を具体化する迄には関係者の幾多の目に見えない努力が積まれてきたが、出来るだけ多くの方々からの意見を聞き、それらをもとにして実施にふみ切ろうと去る八月、一斉に分館ごとの研究会をもったところ全分館とも〃良いことであるから是非実施したい〃等積極的に賛成し、その方法を研究してきた。

各会場で話し合われたいくつかをあげると〃いいことであるから何とか実施したい〃〃農休日をとると計画性が出てくるし仕事に節度がついて能率があがる。その上健康的で働く事が楽しくなる〃〃仕事に追われてばかりいると、この上休めないと思うが、要は生活や頭の切りかえ一つで実施できるものだ〃〃農夫病などの事を考えると農休日を考えずにはいられない〃等々、そのほか沢山の意見が出ている。

この中で特に竜丘老人クラブはみんなが賛成し家庭内に於て、積極的に協力されることになった事も、明るい社会の建設に大きな力となりましょう。

今年の農休日は

十月一日、十一月三日、十二月一日。市民の方々のいろいろな希望や意見を総合し休める時期に計画しようという基本的な考えをもとにやむを得ない農繁期は除いて原則として毎月一日ということになった。そこでまづ、十月の農休日は一日に実施することに決ったこの日は各人が進んで実行しましょう。休日の過ごし方も農家であれば、当然家畜の飼育等は欠かせない事ではあるが、そうした制約のある中で意義ある休日にするために、みんなで話し合って本当に農休日にふさわしい過ごし方も考えなければならない。

分館めぐり

—駄科分館の巻—

二二名の短歌グループ

地域的な事業を中心

今年の公民館基本方針の第一の目標の中に『分館活動の積極的な推進と育成』が唱い上げられている。そこでこれから各分館の特殊な事業を『分館めぐり』という題で拾ってもらうことにする。

駄科分館で先づ分館独自の特殊事業として掲げねばならないのは教養部の主催で行っている駄科公民館短歌グループであろう。以前より駄科地区内に短歌をやってみたいという気運があり、昨年発足し、現在会員二十二名を擁し、毎月一回、十日締切りで印刷し、各自が読んで十五日に批評会を例会として持っているが、特記すべきことは、農繁期であろうとも、必ず行なわれ、出席率も非常によいということである。本当に短歌を通して、自己の教養を高め、かつ人間探求をなそうと意欲的な集りです。教養部は他に青少年補導の講演会を行い、又婦人対象にローマ字講座もやっている。分館までは地理的に一寸支障する人達が大勢集まって学習している。

社会産業部は市政をきく会を催し、市政への一歩接近の力添えをした。昨年管理委員の問題でモヤモヤになっている区政に対して、もっと駄科区のことを知ろうではないかと、駄科についての勉強会というのを計画している。産業活動に於ても、農休日についての話し合い、農事研究会なるものも計画されている。

体育部は本館事業への協力を惜しまず、卓球、野球、排球大会を行い、来たる市民運動会への意欲も盛んである。

視聴覚部は公民館映画で忙しい新井原と駄科分館と二会場を手配し保育園のシキリを取りはずし上映する苦労は並大抵ではない。

総体的な事業として、レクリエーション大会を開いて好評だったし、分館活動のあり方についての研究会をやろうと思っているし、青少年健全育成と老人クラブの助成を行う。せまい紙上で駄科分館の活動について羅列してみたが、今年の場合、区政がうまくいっていないため、予算的裏付けがないことと、分館役員の年令的に若令がわざわいして期待通りにはいかないかもしれないが、公民館活動の本来化をはかろうと思う。

好評の共同炊事

長野原でこの春から

この春から長野原では、おそろいの薄緑色の容器をもった人達が三々伍々公民館に向う姿が、目をひいている。

これは、最近農家の兼業化に伴って、老人と主婦の労働過重が、問題になっている折柄、これを少しでも軽減しようと始められた共同炊事のひとこまである。

長野原では、昨年主婦の共同桑畑作りがされたが、その中から、具体的な話しがもち上り、中田、宮川改良普及員の指導により、農繁期の労力と経費の節減、栄養価の増大と変化に富んだ食事をとる等のねらいで、実現したものである。

期間は、春が六月一日から十八日まで、夏が七月二十六日から八月六日まで、現在行なわれているのは、九月三日から二十五日までとなっている。

尚、飯田普及所管内十六カ所（伊賀良六カ所、下久堅三カ所等）のうち夏も行なったのは、長野原だけであり、これは、養蚕農家が多いという特殊事情からと思われる。

規模は、十八戸が参加し給食人員は、ときにより増減があるが、最高のときが、九十四人となっている。

経費については、最初の設置費が、公民館の一部を改造したことと参加者の労力提供により、五万四千円程度ですんでいる。給食は副食のみで、昼、夕食の二回、野菜と燃料、調味料の一部を持ち寄りで、春が一食当り十八円五〇銭夏が十八円五〇銭となっている。

この経費には、調理担当者の、春一日平均二人半、夏二人の手当も含まれており、最初の単価を決めるにあたっては、家計簿から割りだした数字と、参加者の希望の平均をやゝ下回る程度を目途とす方法がとられた。

栄養価の点では、昼、夕二食の副食だけで四百から五百カロリーという数字が、算出されている。いままでの結果では、非常に好評で、最初の目的通りの成果が、あげられたといってよく、将来も続けて行なわれる見通しである。

竜丘では、初めての試みであったが、今後地区内各所に普及されることが望まれると共に、主婦によって計画され運営されている、共同炊事を通じて、封建的な人間関係の改善、共同作業、共同経営といった高い次元への発展が期待されている。

地区に組織の結成を

＝原水爆禁止運動＝

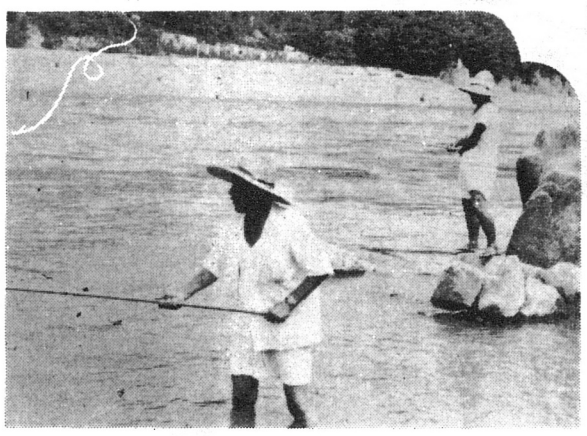
去る八月四日から、東京で開かれた、核戦争阻止原水爆禁止第八回世界大会の報告会が、公民館、婦人会、青年会の共催で、八月二十六日、支所に於て、飯伊原水協事務局長今村真直氏を迎えて開かれた。参集者は少なく、婦人の人たちが主であったが、あらためて核戦争の危機や緊迫した国際情勢をきき、しらないまに進んでいる情勢の深刻さをあらためて知ってこの運動の重要さを痛感した。

特に、こゝ数年間にわたって進められてきた核戦争準備は、かってない大きな規模に達しており、核戦争の危険は、はるかにさしせまったものとなっているなどの話しがあり、①核戦争をめぐる内外情勢について真実の理解をする為にしっかり学習を深めてゆく必要がある。②「いかなる国をとわずあらゆる核実験に反対する」という原水協基本原則の上に、思想、信条、党派の違いをのりこえて、ヒューマニズムの立場に立って、団結してこの運動にあたらなければならない、などが強調された。

竜丘地区では、今までに世界大会にも数名代表が各関係で出席しており、これらが中心となって、今度、公民館、婦人会、青年会が主体として、地区原水協の組織を作るよう話しが出ており、すでに七月準備会が持たれ、研究されて来ており、具体的な問題についていま各機関にて研究されている段階で、近く結成が出来、積極的に運動が進められると思われる。

秋秋

アユの〃釣り天狗大会〃開かる



竜丘支部漁業組合による恒例の第三回アユの〃釣り天狗大会〃が去る九月二日午前八時から午後四時迄天竜川に於て、日頃腕自慢の釣り天狗たち約三十名が参加して行なわれた。この日はそれぞれ川や魚の状態などでなかなか釣れなかったともらしていたがなかなかの腕ぶり、順位は魚の種類をとわず目方できめることになっておりその結果、優勝は四二〇匁をとった渡辺君夫氏、二位は伊藤喜好氏、三位は伊原利一氏でした。

【写真は日ごろの腕自慢をきそう釣天狗たち】

あの人この人

永遠に幸あれ

（洲原 昭夫 桐林 林 寿子 三穂より）
（松下 正弘 豊丘村へ 小林 明子 長野原）
（寺沢 勇 駒ケ根市へ 原 百合子 桐林）
（築田 幸次 福島県へ 近藤みち子 駄科）
（一ノ瀬森市 駄科 熊谷ふさ子 名古屋市へ）
（中平 秀一 鼎町へ 久保田茂子 駄科）
（安藤 善靖 塩尻へ 川窪イツヱ 時又）
（堀田 千足 桑名市へ 木下 房子 駄科）
（藤田 秋男 駄科 石井 照子 東京都より）
（下井田米活 長野原 川上 花江 飯田より）
（原 宣三 桐林 林 貞子 三穂より）
（下平 直尋 時又 阿部千代子 愛知県より）
（今村 輝夫 長野原 三ツ石益子 鼎町より）
（下平 道利 時又 飯田 浩子 静岡県より）
（下平 広志 時又 小畑 千春 豊丘村より）
（丹羽 毅 三重県へ 久保田春子 駄科）

ごめい福を祈る

氏名	年令	性別	部落名
増田春一郎	七二	男	上川路
下平福太郎	七六	〃	駄科

伸びよ健やかに

氏名	父名	性別	部落名
吉川浩一	敬	男	駄科
下平はつみ	俊郎	女	桐林
小林直樹	一男	男	長野原
塚平裕	正	〃	上川路
今村俊明	功	〃	時又
沖田昇	吉夫	〃	〃
小林千恵子	章夫	女	長野原

コレダ・ホンダ販売
新規開店しました　よろしくお願い致します
飯田市中央通り3
下平モータース
下平頴治
電話2466呼

随想リレー

—90回—

農村の生活に思う

駄科　久保田節子

この頃はどこの農家でも耕運機を持ち、大方の息子はオートバイに乗り、電気洗濯機やテレビも大分入りました。こうした現象だけをみていると、農村は変り、大変進歩したと言うようにみえます。確かに昔にくらべれば大変進歩したといえるでしょう。そして年配の方々の中には「えらいぜい沢になったものだ」と思われる方も少くないしでょう。長い間高い小作料と、戦争のために節約を余儀なくされた父母達の事を思えば、それも解らないではありません。

しかし、反面耕運機を買ったためにその代金に追い回わされたりある農村の実態調査には、戦後向上が著しいといわれている婦人の体位が逆に低下して、その原因が電気洗濯機やその他家庭の合理化製品を買いたいために食費がけずられたためだといわれております。そして洗濯機を買ったからといって、それだけお母さん達の労働時間が短くなったとは決していえないと思います。洗濯機を買えば洗濯はもう何かの仕事の片手間にやる仕事となり、相変らず忙しい忙しいと言って一日を終らなければなりません。

よくお年寄りの方々が「昔にくらべりゃあ今は働かんようになった。人間は働かにゃあ。第一働かにゃ飯がうまくない」等といわれます。でも農家のお年寄りは長い間一生懸命働いて来たのだし、体力もそれだけ消耗しているのですから、能力以上に働かなければならないような現状を何とかならないものかと思わないではいられません。

でも、大変なのはお年寄りばかりではありません。若いものはそれ以上に働いております。そして子供たちもまだ〳〵何とかしてあげたいと思うことがたくさんあります。忙しまぎれに「遊んではかりおるな」とどなられたりすることば、かえって真の労働の意味を理解せず、労働意欲をなくす原因だと思います。

不服と理屈ばかりならべて、今の若いものは全くしょうがないと思われるでしょうが、私はもう少しお年寄りがぶつ〳〵いわなくてもよいようになり、お父さん、お母さんが、仕事のことだけに追いまわされないようになり、若い嫁さんが本を読めるようになり、青年や子供が、希望をもって働いたり、学んだりすることが出来るような農村にならないかと思います。そしてみんなで、そのことを考えれば必ずそうゆう農村が来ると信じて、農村の嫁として、母として生きて行くこれからの生活のどんな苦労にも耐えて行きたいと思っております。

次のバトンを市瀬啓三さんに渡します。